

Table3 老性自覚を従属変数とする回帰分析の結果(世田谷区)

	標準偏回帰係数 オッズ比			下限	上限
年齢	-0.096	0.909	0.887	0.931	**
性別	0.085	1.088	0.869	1.363	
自覚健康度	0.302	1.353	1.177	1.555	**
家計の管理	0.065	1.067	0.742	1.536	
家事	0.044	1.045	0.784	1.391	
他者との交流	-0.048	0.953	0.816	1.113	
段取りと実行	0.222	1.248	1.074	1.451	**
スムーズな身辺動作の衰え	-0.025	0.975	0.734	1.294	
ADL・IADL	0.227	1.254	1.088	1.446	**
足腰の衰え	-0.071	0.932	0.712	1.219	
交通手段の利用	-0.123	0.884	0.678	1.154	
感覚器官の衰え	0.047	1.048	0.847	1.298	
出版物を読む	0.020	1.020	0.719	1.447	
電話の利用	-0.025	0.975	0.915	1.040	
現在の満足感	0.044	1.045	0.999	1.093	*
主観的QOL	0.156	1.169	1.105	1.236	**
心理的安定					
生活のハリ					

有意水準 \* p&lt;0.5 \*\* p&lt;0.01

Table4 老性自覚を従属変数とする回帰分析の結果(大島地区)

	標準偏回帰係数 オッズ比			下限	上限
年齢	-0.069	0.934	0.874	0.998	*
性別	0.521	1.683	0.934	3.036	
自覚健康度	-0.320	0.726	0.527	1.001	
家計の管理	0.521	1.684	0.659	4.303	
家事	-0.192	0.825	0.266	2.558	
他者との交流	-0.424	0.654	0.364	1.175	
段取りと実行	0.179	1.196	0.796	1.798	
スムーズな身辺動作の衰え	-0.339	0.712	0.418	1.214	
足腰の衰え	0.464	1.590	1.049	2.409	*
交通手段の利用	-0.172	0.842	0.492	1.44	
感覚器官の衰え	0.296	1.344	0.73	2.473	
出版物を読む	-0.113	0.893	0.555	1.439	
電話の利用	-0.679	0.507	0.21	1.225	
現在の満足感	0.195	1.215	0.908	1.624	
心理的安定	0.065	1.067	0.961	1.185	
生活のハリ	0.184	1.202	0.98	1.475	

有意水準 \* p&lt;0.5

## 参考文献

Tuckman, J. & Lorge, T. 1953 Attitudes toward old people. *The Journal of Social Psychology*, 37, 249-260.

Tuckman, J. & Lorge, T. 1958 Attitudes toward aging of individuals with experiences with the aged. *The Journal of Genetic Psychology*, 92, 199-204.

橘 覚勝 1971 老年学 その問題と考察, 319-335.

東京都民生局総務部企画課 1972 老後に関する意識調査報告書

長嶋紀一 1974 老化イメージについて 亜細亜大学教養部紀要, 9, 39-55.

遠藤 忠・佐々木心彩・村山憲男・石原 治・長嶋紀一 2002 老性自覚に関する研究 日本心理学会第66回大会発表論文集, 1081.

### 3. 実験研究

## (1) 高齢者の記憶の測定課題

分担研究者 石原 治(東京都老人研究所研究員痴呆介入研究グループ研究員)

研究協力者 佐々木心彩(日本大学大学院文学研究科)

研究協力者 遠藤 忠(日本大学大学院文学研究科)

研究協力者 和田有史(日本大学文理学部)

研究要旨：客観的な指標としての認知・記憶のパフォーマンスの測定方法を開発し、認知・記憶機能に関する測定を行なった。認知・記憶機能としては分配的注意、選択的注意、ワーキングメモリー、短期記憶、エピソード記憶、日常的記憶、展望的記憶、自伝的記憶などをとりあげた。高齢者の動機づけ、難易度、測定時間を考慮に入れ新たに課題を作成し、顔の再認、単語の直後再生、遅延再生、遅延手がかり再生や、単語の直後再認、遅延再認、リーディングスパン、語の流ちょう性、展望的記憶に関する課題を作成した。東京都府中市の生きがいデイサービス通所者48名の高齢者を参加者として測定を行い、測定内容の妥当性の検証を行った。結果としては、例えば、1) 顔の再認に関しては、有名人の顔の方が無名人の顔より再認率が高く、無名人の方が有名人の顔より虚再認率が高い傾向がみられた、2) 手がかり再生に関しては、遅延の方が直後再生より誤再生率が高い傾向が見られた、3) 展望的記憶に関しては、自発的想起66.7%、手がかり想起26.2%、できなかったには7.1%であった、4) リーディングスパンの平均正答数は2.6語、5) 語の流ちょう性の平均再生数は9.5語であった、などの結果を得た。

### 【はじめに】

近年、痴呆予防の観点からも痴呆を発症する以前の状態についての研究が進み、MCI(Mild Cognitive Impairment)、AACD(Age-Associated Cognitive Decline)などの概念を新たに定義した認知的な障害が着目され、研究が盛んに行なわれている。痴呆と診断される5~10年前から、認知的な障害の兆候が出始めていると言われている。MCIやAACDの一部は、痴呆に移行するリスクが、一

般の人と比べて高いことがわかっている。このように、痴呆と診断される数年前に、軽度の記憶障害など認知的機能が低下し始める段階があり、それを経て、痴呆発症に至るケースが多いと言われている。

時間的にもさらにさかのぼり、MCIのように記憶や認知機能が低下する以前にも、さらに軽微な障害が日常生活を送る上で現れているのではないかと考えられる。記憶機能にはさまざまな側面があり、例えば、ほんの短い時間記憶している短期記憶と遠い過去の出来事を長期間覚えている長期記憶では、記憶の仕組みや働きが異なっている。そこで、軽微な段階の認知的低下が、まずどのような側面で現れているかを検討する必要があると考えられた。

確かにHDS-RやMMSEでは記憶・認知のパフォーマンスが組み込まれているが、これらのテストは本来痴呆のスクリーニングテストであり、MCIのスクリーニングテストではないことは明らかである。残念ながら我が国では、MCIなどの記憶や認知障害などをスクリーニングするための精度の高い実験課題は開発されていないのが現状である。

そこで本研究では、このような観点から、客観的な指標としての記憶や認知のパフォーマンスを測定することを目的とし、実験を行った。課題は、高齢者の動機づけ、難易度、実験時間などを考慮に入れ作成した。顔の再認、単語の直後・遅延再生、直後・遅延再認、リーディングスパン、展望的記憶課題などを用いた。

## 【方法】

### 被験者

東京都府中市の生きがいデイサービス通所者48名であった。このうち脳梗塞など脳疾患の既往歴のあった4名、課題が遂行できなかった2名を除外した。最終的に42名を分析の対象とした。性別の内訳は男性2名（5%）、女性40名（95%）であった。被験者の平均年齢は74.8歳（SD=7.45）、性別ごとでは男性73.5歳（SD=2.12）、女性74.9歳（SD=7.62）であった。

### 課題

#### ①顔の再認

有名人6枚と無名人6枚の顔の白黒写真12枚を記銘用の刺激として用いた。写

真の大きさは、縦90mm、横75mmであった。なお、この写真の刺激以外はすべてA4版の紙を刺激に用いた。再認テストには妨害刺激として新たな有名人6枚と無名人6枚の写真を用いた。記銘時および再認では有名人と無名人の写真を1枚ずつランダムな順序で約2秒間ずつ呈示した。被験者は記銘時では写真が男性か女性かの判断をし、有名人かそうでないかを答え、顔を記銘した。挿入課題として「朝ご飯を食べたかどうか」を尋ねた。再認では記銘時で覚えた顔であったかどうかの判断を行なった。

## ②カテゴリー再生課題

魚、花、果物のカテゴリーに属する単語を4個ずつ用いた。それぞれのカテゴリーの典型性は中程度の単語であった。それぞれのカテゴリーに属する単語1語ずつ合計3個の単語を印刷したカードを4枚作成した。再生課題は直後自由再生、カテゴリー名による手がかり直後再生、遅延自由再生、カテゴリー名による手がかり遅延直後再生であった。手がかりのカテゴリー名はランダムな順序であった。被験者の課題は、カードが提示されたら3個の単語を読み、記銘することであった。単語を読み終わったら、新たなカードを呈示した。カード呈示後、挿入課題として「明日の天気はご存知ですか」と尋ねた。カテゴリー名による手がかり直後再生終了後に次の課題である③リーディングスパンテストを行なわせ、遅延自由再生、カテゴリー名による手がかり遅延再生を行なわせた。リーディングスパンテストに要した時間は約4～5分であった。

被験者に魚、花、果物のカテゴリーそれぞれの名前を記銘してもらい、再生課題で直後と遅延をもうけて、それぞれ自由再生と手がかり再生を行なわせ、覚えた単語を報告する課題である。

## ③リーディング・スパンテスト

刺激文は以下の通りであった。

「幼い子供がかわいい人形をもって部屋で遊んでいた。」

「若い女性が小さな荷物をかかえながらいすにこしかけた。」

「無口な店員が丸いせんべいをだして棚にならべていた。」

「担任の先生がむし暑い教室の窓をあけてピアノをひいた。」

「元気な男の子が大きなとんぼを追って公園を走っていた。」

5個の文であった。1文ずつ1枚のカードに印刷した。記銘する単語は、人形、いす、せんべい、ピアノ、とんぼの5個の単語であったが、それらの単語に下線をひいた。被験者の課題は、呈示される文を音読しながら、下線の引かれた単語を記銘し、5枚のカード呈示後、単語を報告することであった。5枚のカード

呈示後、挿入課題として「車の免許をお持ちですか」と尋ねた。

文を読みながら、単語も同時に覚えるというワーキングメモリーを測定する典型的な課題である。

#### ④カテゴリー再認課題

文房具のカテゴリーからはさみ、鉛筆、乗り物のカテゴリーからトラック、タクシー、台所用品のカテゴリーから茶碗、スプーン、コップ、まな板の合計8個の単語を記銘刺激として用いた。8個の単語は1枚のカードに印刷した。

やかん、フォーク、足袋、フライパン、箸、シャツ、皿、セーター、長ぐつ、ふきん、包丁、くつ、ナイフ、鍋、スカート、ズボン、オートバイ、たわし、げた、ポット、バス、しゃもじ、コート、ぞうりの24個の単語を妨害刺激として用いた。記銘刺激と妨害刺激を負わせた合計32個の単語をランダムに配列して、1枚のカードに印刷し、再認用のカードを作成した。

記銘用のカードは2分間呈示し、被験者に単語を記銘するように教示した。記銘カード呈示後、挿入課題として「寝起きは良い方か、悪い方か」を尋ねた。そして、再認用のカードを呈示し、記銘した単語8個に鉛筆で丸をつけるよう教示した。

遅延再認では再認用カードを呈示し、直後再認とおなじように記銘した単語8個に鉛筆で丸をつけるよう教示した。挿入課題は⑤語の流ちょう性課題であった。課題に要した時間は約2～3分であった。

この課題は被験者に8個の単語を記銘し、直後と遅延再認を行なう課題である。

#### ⑤語の流ちょう性 (Word Fluency) 課題

この課題は、制限時間内に動物のカテゴリーに属する成員名（単語）できる限り多く報告する課題である。制限時間は30秒間であった。

#### ⑥展望的記憶課題

刺激には数字の印刷された番号札を用いた。実験開始直後に教示を行なった。被験者の課題は、実験中は番号札を被験者の服にしまっておき、実験終了後自発的に机の上に置かれた箱に戻すことであった。自発的に番号札を想起できなかった場合、以下の3段階のプロンプトを用いた。

「何か忘れていませんか。」

「番号札をここに入れていただくようお願いしましたが。」

「先ほどお渡しした番号札を返していただけますか。」



手続き

実験は個別に行なった。被験者は①～⑥の課題を順番に行なった。全員同じ順序であった。実験に要した時間は約20分であった。

#### 【結果と考察】

##### ①顔の再認課題

有名人、無名人の条件ごとに正再認率（Figure1）と虚再認率（誤って既知顔と答えた率，Figure2）を求めた。正再認率は有名人0.94，無名人0.82，虚再認率は有名人0.06，無名人0.08であり，正再認率は高く，虚再認率は低かった。また，有名人の方が無名人よりも正答率が高かった。

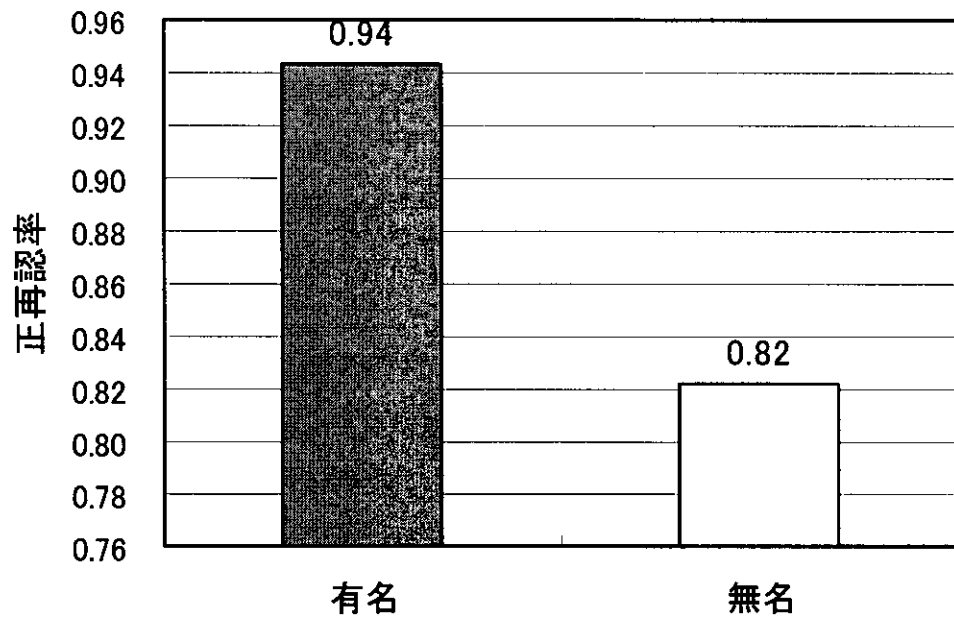


Figure1 正再認成績の結果

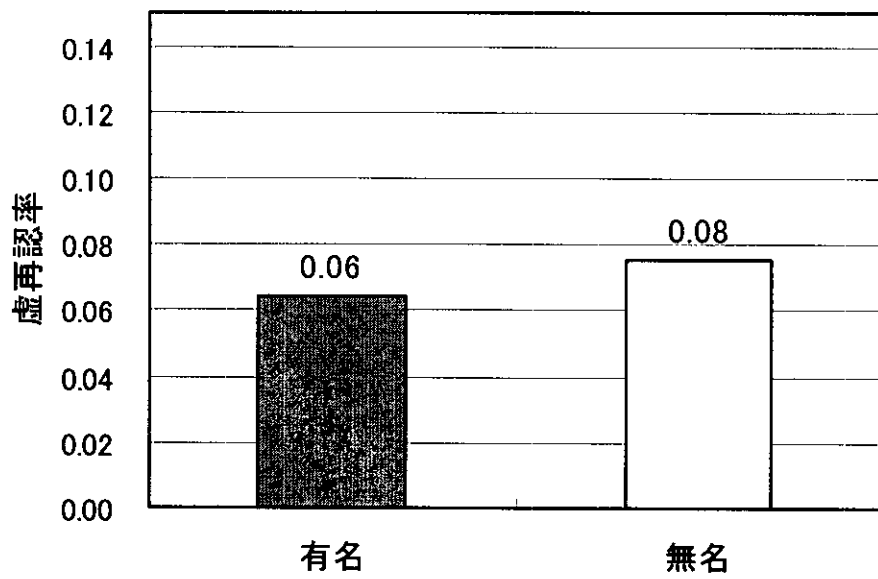


Figure2 虚再認成績の結果

## ②カテゴリー再生課題

正再生率と虚再認率を自由再生課題，手がかり再生課題の課題ごとに求めた．その結果，正再生率は直後自由再生課題0.33，遅延自由再生課題0.22，直後手がかり再生課題0.16，遅延手がかり再生課題0.18であった．自由再生課題では直後の方が遅延よりも正再生率が高かった．正再生率の結果をFigure3に示した．また，誤再生率は直後自由再生課題0.10，遅延自由再生課題0.09，直後手がかり再生課題0.13，遅延手がかり再生課題0.17であった．誤再生率の結果をFigure4に示した．

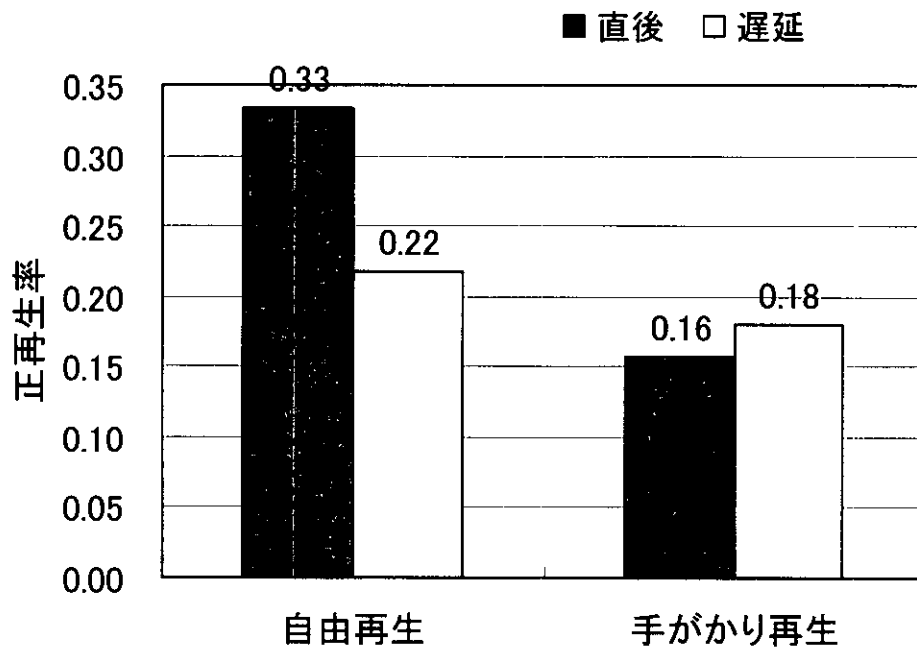


Figure3 正再生率の結果

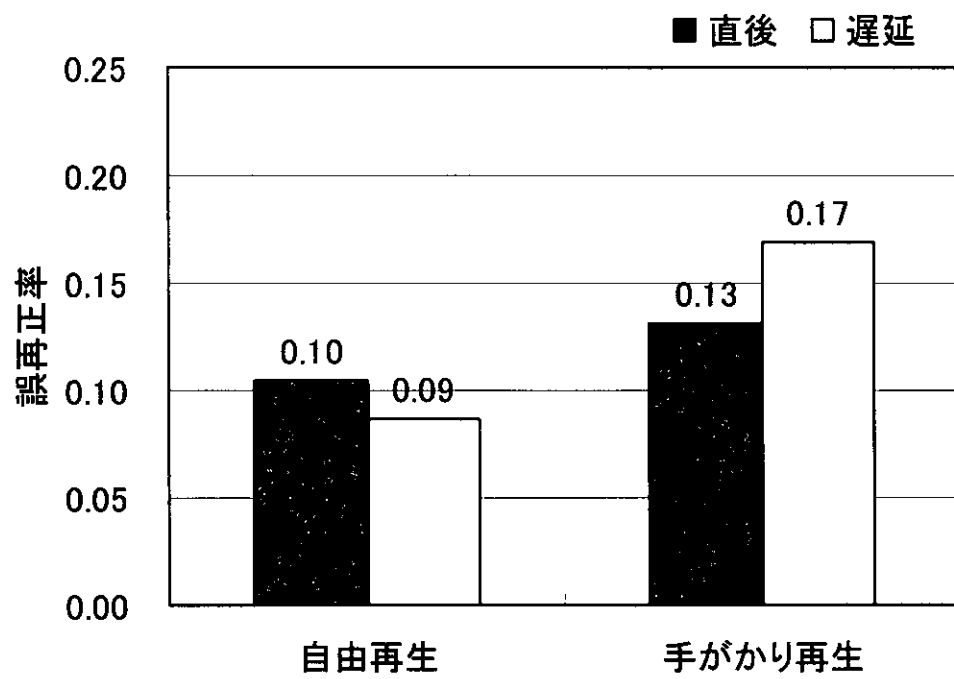


Figure4 誤再生率の結果

③リーディング・スパンテスト

全正答数は5個であったが，平均正答数は2.64(SD=1.48)，誤答数0.43(SD=0.59)であった．結果をFigure5に示した．

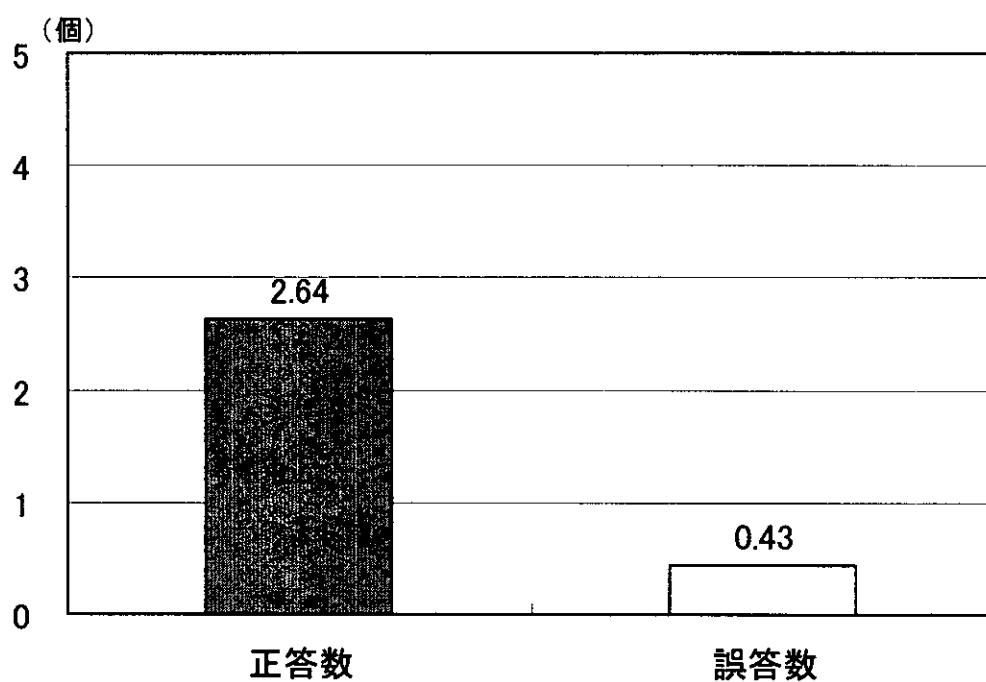


Figure5 リーディング・スパンテストの結果

#### ④カテゴリー再認課題

カテゴリー再認課題について、直後再認課題と遅延再認課題においてそれぞれ正再認率と虚再認率を求めた。その結果、正再認率は、直後再認課題0.88、遅延再認課題0.81であり、両課題とも再認率は高かった。再認率の結果をFigure6に示した。また虚再認率の結果をFigure7に示した。

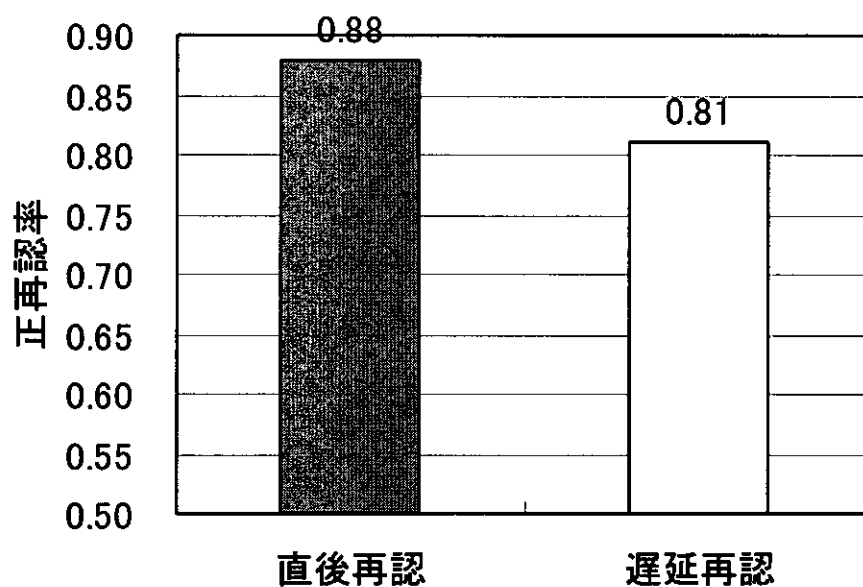


Figure6 正再認率の結果



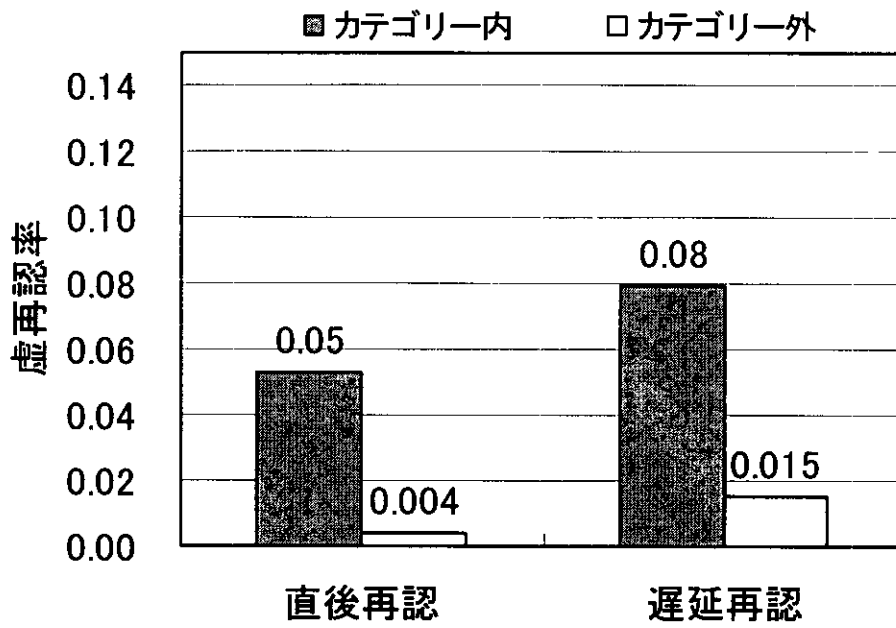


Figure7 虚再認率の結果

⑤ 語の流ちょう性課題

平均算出語数は9.5語であった。結果をTable1に示した。

Table1 語の流ちょう性課題の結果 (N=42)

平均	標準偏差
9.5	3.47

⑥展望的記憶課題

自発的に遂行できたのは28名，プロンプトによって遂行できたのは11名，遂行できなかったのは3名であった．展望的記憶課題の結果をFigure8に示した．

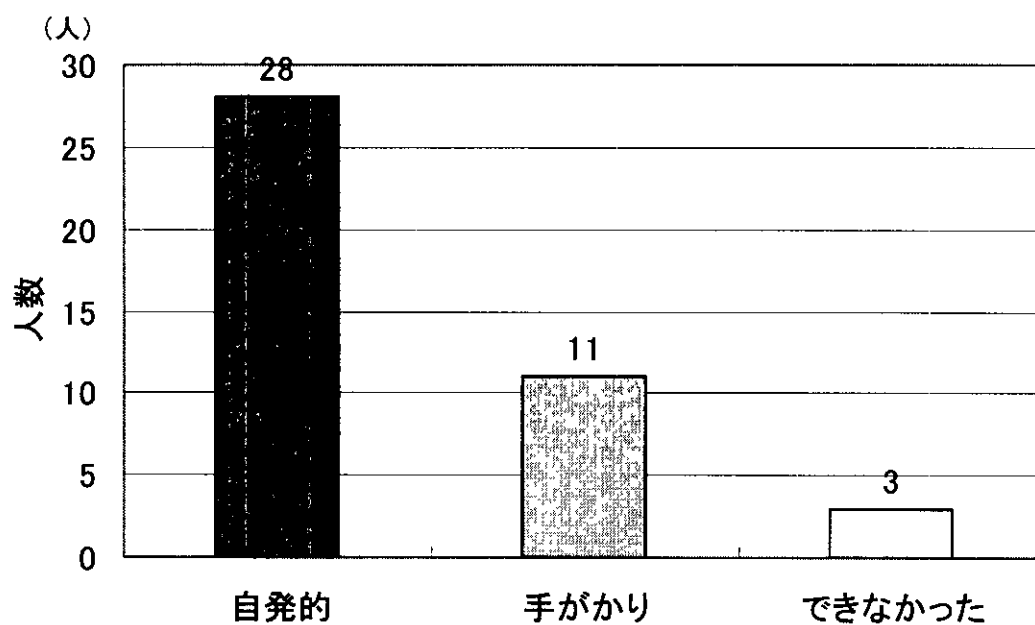


Figure8 展望的記憶課題の結果

#### 4. 平成 15 年度研究計画